道　NO. 28

2012. 5. 28

せめてこれぐらいは・・・！

時代ごとの特徴

６世紀に日本に伝来した仏像ですが、作られた時代によっても違いがあるようです。ここでは、特に特徴的な項目を紹介します。ひとつのお寺で時代の変化が感じられる三十三間堂を見学予定にしている班は、見比べてみると面白いと思いますよ。時代によって違うんだよなあ！ただ行くだけでなく、テーマを持って観てこよう。

飛鳥時代（７世紀前半）

顔　－アルカイックスマイル（古代の微笑）という口の両端を持ち上げ、微笑を浮かべたような表情が見られる。アーモンド形の目も特徴的。

衣装、体つき－衣は両肩を覆い、直線的なプロポーション

印相　－左手の人差し指と中指を伸ばし、薬指と小指を曲げる刀剣印は、この時代特有のもの。

材質　－金属では金銅仏が主流。木彫りでは、ほとんどがくすのき。

代表例　－京都、広隆寺・弥勒菩薩　奈良、隆寺・釈迦三尊像

白鳳時代（７世紀後半）

顔　－それまで面長だったのが、丸みを帯びた童顔になる。

衣装、体つき－衣は自然な流れになり、体つきは丸みを帯びてくる。

材質　－飛鳥時代と変わらず、金銅とくすのきが主流

代表例　－奈良、法隆寺・夢違観音・阿弥陀三尊像
京都、蟹満寺・釈迦如来坐像

奈良時代（８世紀）

顔、体つき－表情は威厳があり、体は均整がとれ、写実的で優美な姿に

製法　－型を作り漆を塗って像を作る乾漆造、土を練って像を作る塑造、焼き物の塼造が登場

代表例　－奈良、興福寺・八部衆立像　奈良、東大寺・不空観音立像
奈良、東大寺戒壇院　四天王立像　奈良、薬師寺・薬師三尊像
奈良、新薬師寺・十二神将立像

平安時代（９～１２世紀）

顔　－初期には目鼻立ちがくっきりしたものが作られるが、その後貴族好み優しい表情に

衣装　－衣のひだに角張った大波と丸い小波が繰り返される翻波式が流行

代表例　－奈良、唐招提寺・千手観音立像

鎌倉時代（１３世紀～１４世紀）

顔、体つき－表情や筋肉などが生き生きと表現され、躍動的に

製法　－運慶や快慶らが工房を作り、共同作業に。パーツに分けて彫り上げてから合体させる寄せ木造りが主流で目には玉眼（水晶の玉）が入れられた。

代表例　－奈良、東大寺南大門・金剛力士立像
京都、妙法院（三十三間堂）・千手観音坐像
神奈川、高徳院・阿弥陀如来坐像